

0003

15520

戦時日誌

昭和19年11月至昭和20年4月

昭和二十三年青防記録所戦史室貼付

Zsd

大東亜戦争

功績調査資料

功績調査資料

W.D. 166703

Zsd

戦斗詳報

昭和19年12月

昭和19年12月

昭和二十三年五月防記録所戦史室貼付

海軍功績調査部

0004

軍機

水戰機密第九號
自昭和十九年十一月二十日
至昭和十九年十二月三十一日

第二水雷戰隊戰時日誌

多子
孔多子
第二水雷戰隊司令部

初5〜初9日

7/5



5000

目次

一 經過

二 人員、現狀

三 重要令達報告等

四 參考

五 作戰經過概要

(目次終)

自昭和十九年十一月十日
至昭和十九年十一月十日
第二水雷戰隊戰時日誌

一經過
敵情

十一月十日第三次多號作戰輸送挫折以後我之兵力部署
ヲ更改シテ十一月二十日乃至十一月十日ノ間斷續的ニ第五次乃至第
九次多號作戰輸送ヲ企圖セルニ對シ敵ハ基地空軍而航空
兵力及水上兵力ヲ配シ之ガ邀撃阻止ニ努メ略其目的ヲ
達セルノミナラズ十一月十日以降ハ進ミテ其ノ陸上兵力カレイテ
島岸ニ轉進ノ徵アリ遂ニ七日オルモック灣ニ艦砲射撃ノ援護
下ニ逆上陸ヲ強行セリ
而シテ所在我地上兵力ヲ内陸ニ壓迫シ海軍ノ増援補給路ノ遮
斷ニ成功スルヤ機動部隊直掩下及菲島東方海面ヨリスル機
動空襲並ニ基地航空部隊支援下ニ十一月十日以降新攻略

(ロ) 我軍ノ情况

部隊ヲフルル海ニ侵入セシメ我在菲航空全カヲ以テスル攻撃ヲ
 排除シ十五日シンドロ島サンホセ上陸成功爾後増援輸送ヲ
 強行シテ飛行場ヲ整備二十日既ニ小型機ノ進出ヲ見タリ
 次デ二十日我機突入外戦ニ虚ヲ衝カレン敵ハ逸早ク有
 カ水上部隊ヲサンホセ近海ニ集中我ノ再度急襲ニ備フル
 一方西カリン方面及ロレイテ方面ニ艦船ヲ集中新攻路
 外戦準備中ナル徴極メテ濃厚ナリ
 一方印度洋方面敵ノ海上反撃ハ二十日「サバン」機動空襲ヲ
 未ダ牽制ノ域ヲ脱セサルモビルマ方面陸上ニ於テハ反攻漸次
 本格化シ十二月二十日「アキヤブ」島ニ一部敵ノ上陸ヲ見ルニ至リ
 至十月十日實施セル第五次乃至第九次多勢外戦輸送ハ
 其ノ都度敵航空機及水上部隊ノ阻止反撃ニ遭遇大部

其目的ヲ達シ得ズ一部成功モ急迫セルレイテ島陸上戦局ヲ
 一轉スルニ至ラズ十二月七日敵ノオルモック湾逆上陸ニ依リ
 我ノ不利頗ニ増大シ地上部隊ノ總攻撃ニ策應セル陸軍降
 下部隊ハ散発的戦果ヲ擧ゲ得タルニ過ガズマシラ方面ヨリス
 ル増援亦殆ド其ノ途ヲ喪ヒテレイテ島駐在友軍ハ重
 大難局ニ逢着スルニ至レリ此ノ間支援部隊トシテリガ
 昭南方面ニ於テ訓練整備ニ從事中ナリシ5月4日28日
 敵ノオルモック湾逆上陸ニ関聯ガラン湾ニ進出特機ノットナ
 リタルガ十三日敵攻略部隊ノスール海侵入ヲ見ルヤルソン地區
 敵上陸ニ至ト判断ノ下第三遊撃部隊ヲ決戦用意新南群島
 進出特機ニアルソン地區陸戦邀撃配備下令セラレタルモ
 十五日敵ノミンドロ島上陸ニ依リ發動スルニ至ラズミテ新南
 二十日禮貌作戰發動28日足柄大淀榎杉檜ヲ以テ二十六日

(1) 作戰指導

(1) 編制区分

自十月二十日
至十一月二十日

十月十五日附屬隊兵部署終令セラレタルモ本期間
に達ニテ實質的ニハ多量に戦兵力部署ニ依
レルヲ以テ左ノ通記ス

ガニホセ突入所在、敵ヲ撃破セルモ固ヨリ決定的戦果ヲ
收ル能ハズ南西方面部隊及所在南ノ庫ハ應レテ増
援作戰ヲ中止シ當面ガニホセ地區敵基地ノ撃破及之ガ
増援輸送路ノ遮断ニ航空攻撃ヲ集中スルト共ニ敵ノ新
攻略企圖アルニ對シテハワロン島陸上邀撃態勢ノ急遽整備
ニ全カヲ傾注第二遊撃部隊ハワリシガニ復歸急速
損傷修理戦力ノ須高ヲ圖リテ新情勢ノ展開ニ
備フルコトナレリ

(備考) (1)右表外欄 (2)内ハ沈没又ハ大破シアルヲ示ス (多抗外戦部)

(2) 25d 麻下兵力中矢矧十七郎雲風礮風濱風浦風(涼月冬月
時兩第一遊擊部隊_二屬_二内地_二在_一)

(3) 王馳(霜月)十一月二十日附第二警戒部隊編入サレ
良官、外戰指揮ヲ受ケ二十五日被雷沈没 31/8

(備考) 前號ニ同シ
 (一) 自十月二十日 禮務作戰挺身部隊戦闘詳報参照
 (二) 經過
 (一) 十月二十日 リンガ面航中第一水雷戰隊解隊同隊所屬驅逐艦第二水雷戰隊編入ト共ニ本戰第二水雷戰隊司令官ニ補職セラレ多勢作戰部隊第一警戒部隊指揮官トシテ

(2) 自十月九日 至十月二十日	部	隊部面方西南
(自十月二十日 至十月三十日)	隊	第二遊撃部隊
指揮官	司令官 第五艦隊	西南方面艦隊長
兵	25d 外前隊ニ同シ	5F 第一警戒隊 第二警戒隊 第三警戒隊 第四警戒隊 第五警戒隊 第六警戒隊 第七警戒隊 第八警戒隊 第九警戒隊 第十警戒隊
力	4.5x	2.5d
主要任務	作戦輸送部 隊支援 敵進攻部隊 反撃々滅	

支援部隊屬シ當方面に在リ戰ヲ直接指揮スルコトナリ
 二十日「リ」ガ着岸波ヲ合同ス同日四十駆(霜月)第二戦隊
 部隊歸入ノ令ニ接シ同夜之ヲ分離昭南ニ面航す一戦隊ニ
 合同セシム然ハ二十四日同艦將旗移揚昭南発「ブル」ニ面航中
 二十五日四八二度ニハ分北一〇七度ニ分東ニ於テ敵潛ヲ撃
 フ受ケ沈没ス二十七日駆(朝)ヲ二十日朝霧ヲ夫々修リ理
 為昭南ニ面航セシム
 主艦(岸波)ハ八八度ニ護衛任務ヲ爲す同日「リ」ガ発昭南ニ面航
 セシム(同艦)二十日昭南発十一月一日マニラ着同三日発昭南面航中
 四日一〇三。乃至一四。二二回ニ互リ敵潛ヲ撃テ受ケ一六度ニ分東ニ於
 テ沈没ス
 十一月十カ「ブル」ヲ出撃セル第一遊撃部隊ノ大部ハ同二十日
 内海西部着本面航中十七駆(浦風)ハ敵潛ヲ撃テ受ケ

沈没セリ

(2)此ヨリ最モリンガ田航中獨礁セル榛名内地面航ニ決シ28ノ二艦
ヲ以テ馬公迄同艦護衛實施ヲ發令アリタルヲ以テ七駆(霞)
十一駆(初霜)ヲ之ニ指定二十八日リンガ發二十九日昭南着同日
夕刻昭南發十月五日馬公着十月十九日一六。將旗ヲ潮
ニ移ス

十月二十日被雷昭南特機中ノ五十鈴ハスラバヤニ於テ修理
ノットトナリ十一月廿日昭南發命ニ依リ二駆(朝霜)ヲ同艦護
衛艦トシ十一月昭南發之ヲ追及セシム同日榛名護衛任務ヲ
アセルニ十一駆(初霜)霞ハ馬公發昭南向ヘルトコロ高雄發航
船團護衛協力ヲ以テ命令アリ反轉高雄ニ向ヘリ
十一オレイテ方面戰況逼迫ニ依リ28ハ急遽ブルネー方面次
デカムラン方面進出待機ノットトナリ二駆(朝霜)及十一駆

(初霜)霞ハ共ニ護衛任務ヲ打切り前者ハリンガ後者ハカラン
 南ヲ於テ合同ヲ下シセラレ清霜亦急速整備ヲ完了シ
 一月九日將旗ヲ之ニ移揚ハリンガニ進出ス即日將旗ヲ朝
 霜ニ移揚ス朝霜探照燈反射鏡破損シ之ヲ換装ス爲
 十一月十日昭南ニ回航整備ハ上十日ハリンガ出發シ27日合同北上
 十三日初霜霞ヲ合同十日前カラン着將旗ヲ大淀ニ移揚ス
 此ノ間潮ハ應急修理ヲ促進十日完成十二日妙高ヲ護
 衛昭南發十三日夜妙高被雷撃朝之ヲ救難ニ從事セルモ
 曳航成功ノ見込ナク命ニ依リ分離サンガック經由レハニ
 八團退及合同ス又ニ水戦ノ一艦ヲ第十次多務外戦護衛
 部隊編入ノ令ニ接シニ駆(清霜)ヲ之ニ指定十三日之ヲ分離ス
 然ルトコ敵新攻略部隊機動部隊直掩下十三日スール
 海ニ侵入ノ情況アリ第十次輸送部隊解編27日ハ決戦用意

新南群島進出特機ノ下々アリタルガ十五日敵ノインドロ島
 上陸確實トナルヤ其ノ任ヲ解カレ「カムラン」特機トナリ十六日
 二機(清霜)「カムラン」湾ニ復歸合同ス
 此ノ「カムラン」湾敵B-24一機偵察ヲ受ケ翌日、空襲ヲ顧慮シ
 ハ十七日同地發「サンヂヤック」沖田航ニ決シ十八日着尚二十一機
 (初霜)霞ハ日榮丸ノ「サンヂヤック」田航護衛後妙高護衛
 ニ從事スル「トナリ」十七日早朝「カムラン」発同夜日榮丸ヲ分離
 十月廿高ニ合同霞曳航ヲ試ミタルモ曳索切断爾後妙高
 ヲ監視警戒天候ノ恢復ヲ待テアリタルガ二十日禮貌外戦飛
 動アリテ霞ハ「カムラン」ニ復歸合同ニ一機(初霜)ハ其續任務
 續行「トナリ」後者ハ「官」ノ区處ヲ受ケ妙高ヲ護衛曳
 航二十五日昭南着急速入渠整備ニ從事ス
 (自十一月二十日禮貌外戦戦闘詳報カ、昭
 南二十日未日禮貌外戦戦闘詳報カ、昭

(二) 麾下艦艇行動

2100

二	二	一	九	八	七	六	五	四	三	二	一	二
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

(理 修) 保 世

航	同	保	世	航	同	公	馬	航	同	ラ	マ
上	同	上	同	(上 同)	上	上	同	(上 同)	上	同	ラ

沈	没	沈	没	沈	没	沈	没	沈	没	ラ	マ
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

昭	和	昭	和	昭	和	昭	和	昭	和	昭	和
ガ	ン	リ	ガ	ン	リ	ガ	ン	リ	ガ	ン	リ

(理 修)	吳	(上 同)	上	同	(上 同)	上	同
-------	---	-------	---	---	-------	---	---

シ	ラ	ム	カ	シ	ラ	ム	カ
---	---	---	---	---	---	---	---

シ	ラ	ム	カ	シ	ラ	ム	カ
---	---	---	---	---	---	---	---

吳

(理	疹)	吳
上		后
上		后

ホニサ	カ	(傳漢丸榮日)	航	ンラムカ	海航
世	航	四邊島航機	(3 漢航)	吳	航四

三	三	元	六	二	六
一、矢利、冬月、涼月、十七、魁、時雨、行動詳細ハ不明ニ付、若干ノ誤謬アルヲ免レズ					
二、自十月二十日、禮號外戦、挺身部隊トシテ、麾下艦艇行動、至十二月三十日、禮號外戦、挺身部隊戦鬪詳報ニ依ルニ、廣シテハ、禮號外戦、挺身部隊戦鬪詳報ニ依ル					
三、十月十、以降、一時、將旗ヲ大旋ニ掲揚ス、大旋ノ行動、朝霜ニ同シ					
考					
備					
一、矢利、冬月、涼月、十七、魁、時雨、行動詳細ハ不明ニ付、若干ノ誤謬アルヲ免レズ					
二、自十月二十日、禮號外戦、挺身部隊トシテ、麾下艦艇行動、至十二月三十日、禮號外戦、挺身部隊戦鬪詳報ニ依ルニ、廣シテハ、禮號外戦、挺身部隊戦鬪詳報ニ依ル					
三、十月十、以降、一時、將旗ヲ大旋ニ掲揚ス、大旋ノ行動、朝霜ニ同シ					
考					
備					

人員、現狀（十月三十一日現在）

（小司令部）

（一）主要職員官氏名

職	主務	官	氏名	記事
司令官		少將	木村昌福	十月十日 補示戰官
参謀	水雷對潜運用	大佐	廣瀬弘	補示戰参謀
同	砲術、防禦	少佐	板谷隆一	同右
同	機関補給運輸	同	岩井正二	同右
同	通信、航海	同	星野清三郎	同右
司令部附	通信（電波兵）	技中尉	長尾勝行	十月十日 臨時水雷戰官部附
承命服務	對潜（水測）	少尉	小西喜代治	十月十日 補示戰官部附
臨時司令部附	通信（暗號）	同	鈴木義雄	十月十日 臨時水雷戰官部附

不詳

(二)下士官兵及其他員數

同	司今部附
同	參謀附
候補生	同
鈴木謙二	中泉光臣
同 土月十二日着仕 主吉 候補生被命	土月十九日着仕 土月十五日着仕 外女尉

0022

10

三重要令達報告等

發日時

受日時
(宛通報)

十月二十一日

A
2004

令達報告等

機密ニ水戰法令特第一號
艦隊區分左ノ通定ム

隊名	隊番號	第一小隊	第二小隊
第一驅逐隊	一	霜月	若月
第二驅逐隊	二	岸波	濱波
第三驅逐隊	三	朝霜	秋霜
第四驅逐隊	四	浦風	磯風
第五驅逐隊	五	朝霞	曙
第六驅逐隊	六	初霜	時雨
第七驅逐隊	七	初春	

矢別

書

文

10

二日	△ Z/B	三日 △ Z/SB	三日 △ Z/SB	三日 △ Z/SB
一日一六三〇	三日一四三五	三日一四三五	三日一四三五	三日一四三五
多號作戰部隊	多號作戰部隊	多號作戰部隊	多號作戰部隊	多號作戰部隊
(捷號作戰部隊)	(捷號作戰部隊)	(捷號作戰部隊)	(捷號作戰部隊)	(捷號作戰部隊)
隊長	隊長	隊長	隊長	隊長
附令、既令ニ水戰艦隊区分ニ関スル法令ヲ廢止ス	リンガム泊後ニ水戰司令部ハ大淀ニ於テ執務スルコトヲ得	南西方面部隊電令作第七八八號	多號作戰部隊兵力部署中左通改ム	一省略
第一艦隊司令部指揮官第一水面戰隊司令官ヲ兼テ水面戰隊司令官ニ改ム	南西方面部隊電令作第七八九號	第二遊撃部隊指揮官麾下駆逐艦一隻ヲシテ當隊電令作第一〇八號ニ依リ八絛丸ノ護衛ニ任ゼシムベシ	SAB信電令作第一號	SAB信電令作第一號
無	無	無	無	無
信	信	信	信	信

0024

$\frac{A}{YB}$ 二十三日二三五		$\frac{A}{SAB}$
$\frac{A}{YB}$ 二十三日二四五	$\frac{A}{YB}$ 二十三日二四五 (HP 1008)	$\frac{A}{9KF}$ 二十三日二四五 (HP 1008)
第一遊撃部隊電令作第一三八號 當隊内海西部着後各隊艦八左依り行	第一遊撃部隊電令作第六六號 第五戰隊(羽黒)熊野 榛名 第二駆逐隊 第四駆逐隊(霜月)大淀(以上十月十六日附) 第七駆逐隊 第三駆逐隊(時雨欠)第三十一 駆逐隊(以上十一月十日附) 八作戦二関シ南西方面部隊指揮官指揮ヲ承 ノベシ	岸波ハ明日中昭南ニ出航南西方面部隊電令 作第七六九號ニ依ルハ縦九昭南マニラ間護 衛任務ニ従事ス(シ)本行動中極力輸送ニ協力 ス(シ)

電

無

二四二五 信濃 （A 24）	
二四二五 信濃 （A 24）	（A 24）
聯合艦隊電令第五〇號 信濃、第十七駆逐隊ハ信濃艦長之ヲ指揮 シ機宜横須賀發内海西部ニ回航スベシ 内海西部着後第十七駆逐隊ニ對スル信濃	動シ夫々所屬軍港ニ於テ急速應急修理 整備從事スベシ 一省略 二矢矧ハ阜鷹ト合同佐世保ニ回航 三長門艦長ハ第十七駆逐隊、極洋丸ヲ併セ 指揮シ横須賀ニ回航 四第十七駆逐隊（浦風欠）ハ横須賀ヲ生駒丸 ヨリ補給シ内海西部迄信濃ノ護衛ニ任シタル 後吳ニ回航

電

無

電

三十日。三 $\frac{A}{2/B}$	三十日。三 $\frac{A}{2/B}$
三十日。一五九 榛名霞 $\frac{A}{9/K}$ $\frac{A}{2/S}$	三十日。一三〇 榛名(八) $\frac{A}{9/F}$ 年鷹馬)
MSB 一省取 二霞及初霜ハ榛名艦長ノ指揮ヲ承ケ馬公迄同 艦護衛ニ任ル後昭南ニ帰投。予定ノ修理整 備ニ従事スベシ	艦長ノ指揮ヲ承ケ行動セシムベシ 南西方面部隊電令作第七八二號 一第ニ遊撃部隊指揮官ハ榛名ヲシテ便宜リ ンガ泊地發十月五日一三〇。迄ニ馬公ニ於テ年 鷹ニ合同セシムベシ本行動中第二水雷戰隊 ノ駆逐艦ニ食ヲシテ榛名艦長ノ指揮ヲ承ケ 同艦ノ護衛ニ任セシムベシ 二省略

電

無

四日一五三	九ノ参謀長	四日一四五	十有八五	四日一五三	年鷹、冬月涼月、楨一五三。マニラ着
四日二五〇	(菲島部隊)	四日一七〇〇	八號九岸波	四日二五〇	
一四四五敵戦艦又ハ大巡四駆逐艦五輸送船		敵上陸ヲト陸軍ノ報アリ尚情況確認中	護衛ニ任ジ昭南ニ回航スベシ	二省略	
		四日一〇三〇「ホル」島「パン」附近三個聯隊以上	輸送艦八第三駆逐隊司令之ヲ指揮シ八號九	岸波 第十七號海防艦 由利島又第一四九號	
				九ノ司令作第三四號	

電

無

スリガオ海峡 達隊	音一〇二 D 210	音一〇五 D 910	音一〇三 D 210
スリガオ海峡 達隊	音一三三〇 朝 (D) 910 △ 250 △ 100 D 210	音一五〇四 妙高 (D) 910 △ 250 △ 100 D 210	音一五〇五 朝霜 (D) 250 △ 910 △ 210
スリガオ海峡ヨリミニダナオ一海ニ侵入セリ	第二遊撃部隊信電令作第二號 潮ハ妙高ト共ニ昭南發内地ニ回航修理ニ從 事スシ回航中妙高艦長指揮ヲ受ケ同 艦ノ護衛ニ任ズルモノトス	聯合艦隊電令作第五六五號 妙高、潮ハ九日頃昭南發、船團ト同航 内海西部ニ回航スベシ	第二遊撃部隊電令作第三號 朝霜ハ整備次第昭南發「バンガ」水道南口 附近ヲ予十鈴ト合同同艦艦長指揮ヲ受ケ

電

魚

13 0800

14

六日一八四五	六日〇九六 D/B	
七日〇八五 9A A情報着艦	六日一六四五 初霜霞 A/B 9A D 1A A/B 1	
A情報(六日) 左記ヲ綜合スルニ十月五日以降ウルジー方面ニ在リタル敵機動部隊ハ十月五日夜間出撃セル計算大ニシテ其ハ指向方向ハ只今迄ノ所ヨリ宋島方面ニアリト認ム	第二遊撃部隊命令作第四號 初霜霞ハ歸投ノ途次六日高雄發照南回航ノ良策九アマト九ノ護衛ニ協カスベシ	護衛ニ任ジタル後リガ泊地ニ歸投スベシ 五十鈴七日〇七三〇南緯三度五分東經一〇六度三分一〇〇南緯五度三分東經一〇七度二分南緯無 後接岸行動ス

七日九三 NSB	七日一五 情報着艦	〇八〇〇敵艦三隻「イール」砲撃上陸ヲ開始ノ模様ナリ
七日一五 NSB	七日三五 NSB	南西方面部隊電令作第七九六號 第一遊撃部隊(戦艦及戦車行動ニ支障アルモノヲ除キ)ハ至急「ブルネイ」ニ進出待機ス 艦ヲ一時第一遊撃部隊ニ編入ス
七日一五 NSB	七日一六〇〇 NSB	二御堂山ハ「ブルネイ」ニ回航ス 第一南遣艦隊司令長官ハ在昭南島護衛艦ヲ以テ右護衛ニ任セシムベシ
七日一五 NSB	七日一六〇〇 NSB	南西方面部隊電令作第七九七號 SHB指揮官ハ一室空戦可動半兵カラ SAB指揮官ハ在パリスノハパン空戦一機ヲ失フ 十月八日中「ラブアン」派遣第二遊撃部隊

電

海

0032

七日一三二六 $\frac{D}{27B}$	七日一四二二 $\frac{D}{27B}$	
清霜檻 朝霜羽黒 $\frac{D}{94A}$ $\frac{D}{27A}$ $\frac{A}{25d}$	清霜 $\frac{A}{25d}$ $\frac{A}{25d}$	七日一六五〇 水上 谷基地
第二遊撃部隊信電今作第三號 各艦ハ左ニ依リ速ニ出撃準備ヲ完成「リング」 泊地ニ集束結スベシ行動ヲ予定報告スベシ 一省略 二清霜ハ極力工事ヲ促進回航 三朝霜ハ安全ナル地帯ニ於テ搭載物件ヲ五十鈴 ニ移載後 四省略	第一遊撃部隊電今第一號 一第一遊撃部隊水上基地ヲ撤収セヨ 二清霜ハリング泊地回航時基地員收容任ズベシ	同地待機中ノ警戒ニ當ラシムベシ

七〇一五 A/B	七〇二〇九 A/B	七〇二〇〇 A/B
第一七三五 初霜霞 第二遊撃部隊電令作第五號 取消ス 初霜、霞ハ高雄ニ於テ補給ノ上十日夕刻迄 ニ新南群島長島泊地ニ進出待機スベシ	第一二三三 日榮丸 第三遊撃部隊電令作第四號ヲ取消ス 日榮丸ハ重油満載ノ上カムラン灣ニ回航待 機スベシ西方部隊指揮官ハ右ノ護衛ヲ實 施スベシ	第一二三三 護衛ヲ止メ及轉ス七日ニ。位置シ五度五分 分E。八度二分バンカ海峡ヲ経テ八日ニ。リ ンガ着ノ予定 ニ風波大ナル為五十鈴ハ物件(爆雷五個) 移載ハ取止ム

10

15 16 16
0034

八日二三八 R 278	八日二三八 R 278
九日〇四五 R 944 R 278 (R 278)	八日一四五 R 278 R 144 御室山丸一 (R 278 R 944) 日榮丸一
第一遊撃部隊電令作第七號 第一遊撃部隊(足柄四航戦、大淀ニ水戦 (朝霜清霜)南西方面部隊電令作第八 〇六號ニ基キ十日〇〇リッガ出撃ヲ左ニ依リ カムラン灣ニ進出待機	南西方面部隊電令作第八〇六號 一南西方面部隊電令作第七九六號及同七九七號ヲ 取消ス 第一遊撃部隊ハ戰鬥行動ニ支障ヲモラ除ク ハカムランニ回航待機スベシ 第二遊撃部隊指揮官ハ行動ヲ予定シ報 告スベシ 三、艦ハ故障復旧次第マニラニ回航スベシ

電

巡

九日一八〇七 西方部隊	九日一四四二 D 278	
十日〇三五 A 110082 九三六五 D 278 D 944	九日一六四五 D 944 A 2009 霞 D 278 D 944	
西方部隊電令作第一九五號 第一遊撃部隊カムラン灣進出時左に依り同 部隊ノ對潛警戒ニ任ズベシ 一昭南根拠地隊ハ適宜ノ艦艇ヲ以テ昭南ヨリ アナンバス群島附近迄對潛掃蕩	二初霜、霞ハ特令見迄新南群島ニ待機スシ 第一遊撃部隊電令作第八號 一第二遊撃部隊電令作第七號第一項ノ日 程ヲ二日宛繰下グ	(カムラン)入泊時要補給量五〇〇噸所要時間 二十時間(中略)十二日一三〇〇カムラン着 二霞初霜ハ十二日出頃(出來得バ十一日夕刻 迄)當隊ニ會合スル如ク行動スベシ

電

魚

9800 十日 一六四六 P 158	九日 P 278	十日 九〇三 A 272	九日 一九三 P 278
十日 一六四六 P 278 A 25d (P 97 1)	十日 P 147 A 11482	十日 一八三〇 A 25d P 57 (P 147 A 11482)	九日 二〇二〇 A 274 P 25d (P 25d P 274 1)
南西方面部隊電令作第八一八號 第十次多號輸送作戰期間中第二水雷戰隊一駆 逐艦一隻ヲ護送部隊ニ一時編入ス 右駆逐艦ハ十二月十四日一二〇〇迄ニ「マニラ」回航セシム	機務第二遊撃部隊電令作第六號 (カムラン回航命令)	初霜霞 カムラン灣に着	三九三空部隊水偵ヲ以テ對潛直衛 第三遊撃部隊電令作第九號 初霜霞ハ十三日一二〇〇頃當隊ニ合同スベシ
電 無	書 文	電 無	電 無

2800

十日 A 2/B	十日 A 2/B	十日 A 2/B	十日 A 2/B
十四日	十日 A 2/B (A 2/B)	十日 A 2/B (A 2/B)	十日 A 2/B (A 2/B)
機密第二遊撃部隊命令第四三號 (カムラン泊地警戒實施要領)	シムベシ 第二遊撃部隊指揮官ハ麾下駆逐艦一隻ヲ シテ、日榮丸、同宮MMニ回航中ニガ護衛ニ任ゼ シムベシ	南西方面部隊電令第一三八號 第二遊撃部隊指揮官ハ麾下駆逐艦一隻ヲ シテ、日榮丸、同宮MMニ回航中ニガ護衛ニ任ゼ シムベシ	二水戦令第八號 南西方面部隊電令第八八號ニ依ル駆逐艦ヲ 二駆(清霜)ニ指定ス 着信者 二水戦司令官 清霜 通報 9P長官 9P長官 第一輸送戦隊司令官 南西方面部隊電令第八八號ニ依ル駆逐艦ヲ第 二駆逐隊(清霜)ニ指定ス
書文	電 無	(電 無) 信 號	信 號

18 0038	18		
十百一八五	十百一〇五 参謀長	十百一〇五 D 750	十百一〇五
十百一八五	十百一六〇 多銃隊戦 部隊	十百一四〇 D 97A 250 D 270	十百一四〇
第遊撃部隊信令第四八號	當面ノ状況判断スレバ敵ハ一舉呂宋攻略ヲ企圖シヤバス湾及「レガスピ」「ラモン」湾方面相呼應シ上陸ノ算大ナリ 「ハラワン」島方面面ヲ算ナシトセズ	南西方面部隊電令第八三號 一敵攻路部隊(巡洋艦三、駆逐艦二五、中型輸送船三五、上陸用舟艇八〇)〇七四五ノ位置「ゴゴド」ノ二四五度一六〇軒 CO 三二〇度 第二遊撃部隊指揮官ハ戦斗準備完成、上陸下兵カラ率半速ニ新南群島方面ニ進出スベシ 二南西方面部隊電令 第一三八號ニ依ル間定、日策丸ノ護衛任務ヲ解ク	5F 4074 8435
18			

△ 270 △ 250 霞 初霜 (大淀 日丸)	十四日 五二九 △ 270 多読作戦部隊 (朝霜 1)	十四日 一五二 △ 915 △ 145 154 △ 915 918 (1)
一、初霜ハ燃料補給終了後引續キ伊勢ニ霞ニ要スレバ日向ニ横付明十五日〇九〇迄船体其他修理事ニ從事スベシ 二日向伊勢ハ夫々同艦ノ協議ニ應ジ概事ヲ實施スベシ	南西方面部隊電令作第ハニ五號 第十次多読作戦輸送一同輸送部隊ノ編制ヲ解ク	聯合艦隊電令第五七二號 第一南遣艦隊長官ハ妙高救助ニ任スベシ 艦長官 第五艦隊長官ハ附近所在ノ麾下艦艇航空機ヲシテ海上護衛司令長官ハニ八二船團中ノ艦艇及附近所在ノ航空機ヲシテ第一南遣艦隊
信	無	電

十五日 二〇〇五 $\frac{158}{158}$	十五日 〇七三五 $\frac{158}{158}$ 榎	ニ於テ待機スベシ、行動予定ヲ報告スベシ	無
十五日 $\frac{158}{158}$	十五日 $\frac{158}{158}$ 榎	南西方面部隊電令作第ハ二六號 梅(修理完成次第)杉榎榎ハ第四十三駆逐 隊司令ニテ指揮シ速ニ新南群島ニ回航第ニ 遊撃部隊ニ合同待機スベシ	電
十五日 $\frac{158}{158}$	十五日 $\frac{158}{158}$ 榎	機密第一遊撃部隊命令作第七號 第二遊撃部隊新南群島出撃要領	書文
十五日 〇四二 $\frac{158}{158}$	十五日 〇八〇三 $\frac{158}{158}$ 榎	南西方面部隊電令作第ハ二七號 一本十五日敵攻略部隊「マニラ」方面來攻ノ算 アリル作戰第ニ法用意「マニラ」方面陸戰配 備ニ就ケ	無
十五日 〇九四三 $\frac{158}{158}$	十五日 〇一七	第二遊撃部隊ハ決戰用意 南西方面部隊電令作第ハ二八號	電

△ 250	十番一〇五〇 △ 218	十番〇九二 158 参謀長 △ 218	十番一〇五四 △ 218
△ 218 △ 2308 9月1	十番 218	十番一二五 △ 218 △ 250 △ 25 清霜	十番一四二〇 △ 202 9月4 △ 11069
敵情ニ鑑ミ第二遊撃部隊ハ特令アル迄カムラ ン湾附近ニ待機ストニ改ム	當隊特令アル迄當地ニ待機ス(カラン)	第二遊撃部隊第一〇號関聯 敵機動部隊マニラニ空襲被シ敵水上部隊 ミントロ西方海面行動ハ状況ニ鑑ミ清霜ハ マニラニ回航補給ヲ取止メ直接第二遊撃部 隊ニ合同セシムルヲ可ト認ム	第二遊撃部隊電令作第一一號 清霜ハ十五夕刻以後マニラニ入港急速補給 ノ上カムラン湾ニ回航當隊ニ合同セヨ 行動予定ヲ報告スベシ
信	號	無	電

六日一六二。 $\frac{A}{218}$	六日一六二。 $\frac{A}{218}$	六日一五五 $\frac{A}{158}$
留地ニ於テ電波哨戒ハ昼間第一警戒配備 夜間第一警戒配備トス（カムラン） レイテ作戰開始以來我々各部隊ハ奮戦 カ闘寡兵克ク衆敵ヲ制シ來タルモ物量 ニ臨ル敵ハ十月十三日大膽ニモリニタナオ ニ進攻シ將ニルソン島方面ニ迫ラントシツアリ 戦局重大マコトニ例フルニモナシ然レトモ難局 ニ處シタル士氣旺盛其ノ真隨ヲ發揮スルハ帝 國海軍ノ傳統ナリ本職ハ天佑神助ヲ確信シ 各員ノ善謀勇戦ニ信倚シ以テ難局ノ打開ヲ 期ス各級指揮官以下各員深ク戦務ノ重大ナ ルヲ肝ニ銘シ有スル創意工夫ヲ凝シ常ニ積極 的作戰ニ依リ敵ノ虚ヲツキ全員特攻隊員ヲ	信 號	電 無

$\frac{\Delta}{2YB}$	$\frac{\Delta}{2YB}$	$\frac{\Delta}{2YB}$	$\frac{\Delta}{2YB}$
$\frac{\Delta}{2YB}$	$\frac{\Delta}{2YB}$	$\frac{\Delta}{2YB}$	$\frac{\Delta}{2YB}$
第二遊撃部隊信令第五一號 二水戰(清霜、朝霜欠)ハ出港準備完成	信電令第六號ニ依ル出港ハ特令ス	第二遊撃部隊信電令第六號 第二水雷戰隊司令官ハ大波霞、初霜ヲ 率斗準備出來次第出港妙高遭難現 場ニ急行佛印根據地指揮官ノ指揮ヲ受 ケ妙高ノ救難ニ任ズベシ	南西方面部隊電令第八三號 第二遊撃部隊指揮官ハ麾下艦船ヲシテ機 宜妙高ノ救難ニ任ゼシムベシ
電	無	信	號

[illegible]

22

0046

22

十九日〇九五 $\frac{P}{15B}$	十九日〇三七 $\frac{P}{15B}$	$\frac{P}{27B}$
十九日二五五 $\frac{P}{5A}$ 日榮丸 $(\frac{P}{9A} \frac{P}{14A})$	十九日五四六 $\frac{P}{27B}$ 榎杉 $(\frac{P}{27B} \frac{P}{9A})$	$\frac{P}{27B}$ ($\frac{P}{9A}$) $\frac{P}{5A}$ ($\frac{P}{9A}$)
南西方面部隊砲令作第八三六號 日榮丸ヲ第遊撃部隊ニ編入ス	南西方面部隊砲令作第八三五號 榎杉ハ第遊撃部隊ニ合同スベシ 突入作戰ヲ見合ス	本日敵B-24ニ依ル被發見報告ニ鑑ミ當隊明十七日〇八〇〇出港し湾外ニ避退ス 二第主駆逐隊(初霜)及霞ハ日榮丸指揮官ノ指揮ヲ受ケ同艦ノ「サンダヤック」回航護衛ニ任シタル後第十一特別根據地隊司令官ノ命ヲ受ケ妙高ノ救難ニ從事スベシ

電

無

十九日一五二

D
158

十九日二〇〇

D
158
A
25
1
(D
94
大海)

菲島方面當面作戰方針左記外十一月四日附

「菲島當面作戰指導要領」依ル

一、航空部隊ヲ以テ極力「ミントロ」島方面ニ對スル敵

増援補給ノ遮斷 同支援機動部隊並ニ「サンホ

セ」方面敵航空基地ノ制圧及使用封止ニ努ム

二、第二遊撃部隊第一戰隊適宜「サンホセ」

附近在泊中並ニ増援中ノ敵艦船ヲ奇襲攻撃

撃

三、呂宋方面各要地ノ防備ヲ急速強化敵攻略部

隊來攻ニ備フ

四、「リガエ」灣以北ニ於ケル補給基地ヲ急速整

備ス

五、陸軍ニ於テ中菲方面ニ増援作戰ヲ行フ場合ニ

電

無

8500

25

十九日六三 十九日九三五 A 27B A 25d A 9H A 27A 1)	第十九日 十九日九三五 A 27B A 25d A 9H A 27A 1)	於テハ之ガ遺憾ナキヲ期ス 第一遊撃部隊電令作第一三號 一第五戰隊司令官ハ初黑第一驅逐隊(初霜) 及霞ヲ指揮シ第十一特別根據地隊司令官ニ 協力シ妙高ヲ昭南ニ曳航、上霞ヲ指揮シ當 隊ニ合同スヘシ
十九日一〇〇〇 十九日二九四〇 高 通 A 27B 霞ノ	十九日二九四〇 十九日二九四〇 高 通 A 27B 霞ノ	第二驅逐隊(初霜)ハ昭南ニ於テ急速入 渠整備ヲ實施シタル後當隊ニ合同スヘシ 十九日八二〇 (H M G O C J X) 11 00 E 110 30 精度 F 11 11 送信十回以降カミラン灣附近連日ニ一三 隻出現菲島方面作戰部隊並ニ菲島東方海 面行動中機動部隊トノ關係察ナルハ味方 艦艇ノ動向ニ関シ嚴重監視中、モト認メラレ

十九日二〇三	十九日	二十日一六三七 洲参謀長	二十日二十日 二十日三十日	二十日一七四一
十九日	十九日	二十日二〇四〇 HIB 向宮	二十日二十日	二十日二〇四七
直ニ發動ス要アリ	聯合艦隊電令第五七六號 一龍鳳 第十七駆逐隊ハ龍鳳艦長之ヲ指揮シ 二十四日頃 莫發 台灣方面作戰輸送ニ従事スシ 通信謀報係ハ左ノ諸情況アリ 二十日早朝以後敵有力部隊ヲモシ灣又ビアル 地ニ方面ニ乘攻算大ナリ	禮號作戰關係令達報告(禮號作戰挺身部隊戦斗詳報参照)	聯合艦隊電令第五七九號 一龍鳳 矢矧 第十七駆逐隊ハ台灣方面作戰 輸送ヲ資力施スベシ 右作戰輸送ノ行動ニ因シテハ海上護衛司令長官	電 無
電 無	電 無	電 無	電 無	電 無

24

0500

24

三番三八 P 2/B	三番三八 P 2/B	
三番九二 P 2/B	三番九二 P 2/B	
一龍鳳 第十七駆逐隊ハ台湾方面作戦輸送ノ行	海護總電令作第三三八號	指揮ヲ承ケ輸送物件ハ内地ニ於テハ大海戦力補給部指定、台湾方面ニ於テハ高警長官ノ指定ニ依ル 二矢矧時雨ハ龍鳳隊ノ船團(三十日頃門司發)同行「カミ」方面ニ進出第一水雷戦隊ニ合同スヘシ右進出中、矢矧時雨ハ新決發ヨリ「カミ」附近迄ノ行動ニ関シ海上護衛司令長官ノ指揮ヲ承クヘシ 第三遊撃部隊旗艦ヲ一時日向ニ変更ス

電

無

1900

二五二〇五 A 2A	
二五二〇五 2A	矢別龍鳳 (A 9A 1A 5A) A 2A 1A
新功長官ニ際シ麾下一般ニ訓示 (本文省略)	勅令シ第一海上護衛部隊指揮官ノ指揮ヲ 受ケシ 矢別、時雨ハ内地發リ「カムラン灣」着迄ノ行 動ニ関シ第一海上護衛部隊指揮官ノ指揮ヲ 受ケシ ニ第一海上護衛部隊指揮官ハ龍鳳、第十七駆逐 隊、矢別、時雨ヲニハ七船團ニ加入、臺灣方面 ニ進出セシメタル後龍鳳、第十七駆逐隊ハ最近高 速船團ニテ内地ニ歸投セシムベシ 三龍鳳、矢別、第十七駆逐隊、時雨ハ二十九日 〇七〇〇迄ニ門司ニ集ムヘシ
電	無

千五百二〇五 9KA 参謀長	千五百二〇五 9KA 大海 着艦	最近ニ於テ諸情況ヲ判断シ「マニラ」新主陸作 戦相当切迫ヲ判断ス
千六百二五 9KA	千六百二五 矢矧 9KA 龍鳳	聯合艦隊電令第五八六號 聯合艦隊電令第五七九號中矢矧ヲ削除 矢矧ハ一月中旬迄内海西部ニテ訓練整 備ヲ實施スベシ
千六百二七 2142	千六百二七 大島 總長 9KA 9KA 9KA	初霜 昭南ニ入渠三十日出渠一月三日工事完 成十七日出撃可能予定
千八百三五四 第護衛船團 司令部	千八百三五四 9KA 9KA 9KA	七八七船團部隊(潮回航)高雄着

四
参
考ナ
シ

三 日 〇 八 二 七 〇 八 二 八	三 日 一 〇 五 〇 八 二 八 〇 八 二 九 〇 八 三 〇 〇 八 三 一	南 西 方 面 部 隊 電 令 作 第 八 六 〇 號 一 第 二 遊 撃 部 隊 ハ 昭 南 島 (リ カ 泊 地) ニ 回 航 急 速 修 理 整 備 ニ 従 事 ス ベシ 整 備 期 日 ハ 一 月 中 旬 ヲ 目 途 ト ス 二 敵 警 戒 部 隊 指 揮 官 ハ 機 宜 高 雄 又 ハ 馬 公 ニ 於 テ 損 傷 艦 ノ 修 理 ヲ 妥 員 施 セ シ ム ベシ	電 無
---	--	---	-------------------

二 二	二 一	一 。	日
115 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1	A low. 4-45.0N 24-34.00E 104-41.5E	6-1.0N 109-46.9	時 在
東晴 北晴 北晴 二	東晴 東晴 東晴 北晴 北晴 二	東晴 東晴 東晴 東晴 東晴 二	東晴 東晴 東晴 東晴 東晴 二
隊	艦	合	隊
西	方	西	南
三。南。西。面。支。隊。部。隊。 二。着。岸。波。A。同。			主要行動
三。南。西。面。支。隊。部。隊。 二。着。岸。波。A。同。			主要作業
三。南。西。面。支。隊。部。隊。 二。着。岸。波。A。同。	3-29 編隊北九州三米	三。南。西。面。支。隊。部。隊。 二。着。岸。波。A。同。	記事

五、作戦経過概要

二 七	二 六	二 五	二 四	一 三	
--------	--------	--------	--------	--------	--

地 泊 が ン リ

[illegible]

隊	艦	二	第
援	支	隊	部

一〇。聖廟建具那合倉より 毎リ分飛船等ニ四航 二〇。七船（親類）理、尾影 南ニ向ケリシガ所 三〇。昭天和長月某朔、 （浦風）内海部着 五〇。主與岸波（昭南ニ 向ケリシカ所（護多生條） 六〇。王與（相月）南の方 面部防旗艦ヲシテ挑ト同好 ミ、逐面アルヲ三向昭南並	初霜大夜朝霜足柄ニ様 付船係破孔應急修 復工事申始	八里與（霜月）ニ度六合地 ニ於テ敵潛、雷聲ヲ受ケ 沈没空存者桃ニ收容	三〇。朝霜ヤシカ所 昭南ニ面航 ハ。弘治年渡海ノ由利島 八船九ヲ護衛マシ三向ケ 昭南并 五〇。大派昭南ニ向ケ リシガ所
補給満載		清霜昭南商港第五 船渠ニ入渠	
〇九。將旗ヲ露ニ揚 揚艦一時見失 務ヲ大派ニ執行ス	霜月ニ移揚 手後敵以端隊京 京方面空襲	言マシ此被敵攻撃 吹六九一〇強潮速航 多疏輸送挫折	三〇。頃磐谷ニ木 襲本土中部敵 数十機未襲

12月

二	一	三 〇	二 九	二 八
---	---	--------	--------	--------

二八二五	九九一五	セ	レ	夕	—
------	------	---	---	---	---

七	六	南	景	一	南	景	二	北	晴	一	北	晴	一	北	晴
八	五	西	景	八	西	景	四	西	景	四	西	晴	四	北	景
八	二	北	景	八	北	景	二	西	晴	四	西	晴	二	南	景

方西南) 隊戰雷水二第

隊

部

[illegible]

六	五	四	三
---	---	---	---

— 夕 レ セ

六	三	九	北	曇	六	三	八	北	晴	八	三	東	晴	六	三	南	曇
八	三	七	北	曇	八	三	八	北	晴	八	三	北	晴	八	三	北	晴
八	三	六	北	晴	八	三	八	北	晴	八	三	北	晴	八	三	北	晴

官 長 令 司 隊 艦 面

九三初霜霞反乾高 雄三向フ	一〇二〇王船(初霜)霞松 名ヲ護衛シ馬公着	一〇〇〇三十一(初霜)波ハ八八九 護衛昭南三向フマニシテ 二四六冬月涼月横集 雁馬ヲ護衛シ馬公着
		一〇三〇岸波ハ八八九 於テ敵艦ヲ攻メテ受テ航 二五〇海十七岸波曳帆 二四〇二岸波再度被廣擊沈没 二六六様名護衛中霞台南 才ニ於テハ爆撃ヲ受テ被害
	七龍宮名岩山八八九 三子散ヲ退仕 (後独自代理出中船) コリンノ外在敵艦 出撃アリ	

[illegible]

6900

一五	一四	一三	一二
ンラムカ	N11°-35' N6°-58' N0°-53.3'	E09°-25' E107°-1' E104°-18'	南
六 三 五 北 西 晴 半 晴 晴	六 三 五 北 西 晴 半 晴 晴	六 三 五 北 西 晴 半 晴 晴	六 三 五 北 西 晴 半 晴 晴
九 二 九 三 三 三 三	八 三 四 三 五 四 五	九 二 九 三 三 三 三	八 三 四 三 五 四 五
九 二 九 三 三 三 三	八 三 四 三 五 四 五	九 二 九 三 三 三 三	八 三 四 三 五 四 五

二五。晴。雨。吳。着。 二。〇。二。〇。カ。ム。ラン。湾。入。泊。新。 機。	二五。晴。雨。吳。着。 二。〇。二。〇。カ。ム。ラン。湾。入。泊。新。 機。	二五。晴。雨。吳。着。 二。〇。二。〇。カ。ム。ラン。湾。入。泊。新。 機。	二五。晴。雨。吳。着。 二。〇。二。〇。カ。ム。ラン。湾。入。泊。新。 機。
二五。晴。雨。吳。着。 二。〇。二。〇。カ。ム。ラン。湾。入。泊。新。 機。	二五。晴。雨。吳。着。 二。〇。二。〇。カ。ム。ラン。湾。入。泊。新。 機。	二五。晴。雨。吳。着。 二。〇。二。〇。カ。ム。ラン。湾。入。泊。新。 機。	二五。晴。雨。吳。着。 二。〇。二。〇。カ。ム。ラン。湾。入。泊。新。 機。
二五。晴。雨。吳。着。 二。〇。二。〇。カ。ム。ラン。湾。入。泊。新。 機。	二五。晴。雨。吳。着。 二。〇。二。〇。カ。ム。ラン。湾。入。泊。新。 機。	二五。晴。雨。吳。着。 二。〇。二。〇。カ。ム。ラン。湾。入。泊。新。 機。	二五。晴。雨。吳。着。 二。〇。二。〇。カ。ム。ラン。湾。入。泊。新。 機。
二五。晴。雨。吳。着。 二。〇。二。〇。カ。ム。ラン。湾。入。泊。新。 機。	二五。晴。雨。吳。着。 二。〇。二。〇。カ。ム。ラン。湾。入。泊。新。 機。	二五。晴。雨。吳。着。 二。〇。二。〇。カ。ム。ラン。湾。入。泊。新。 機。	二五。晴。雨。吳。着。 二。〇。二。〇。カ。ム。ラン。湾。入。泊。新。 機。

0900

29

[illegible]

二 三	二 二	二 一	二 〇
ノウイカ 一〇五。	N10-12' E109-54	ハミ フツヤ	ダンサ
五 六 六	北 北西 北西	六 八 七	北 北西 北東

[illegible]

30

九〇。A 霞足江大荒二取 作(法箱朝箱)標杉樫ヲ 率平カムランノ弁	一〇〇。主製(和箱)妙高ヲ 戰中東張泊地着 八〇。同ニガ張昭南商港 三〇。同昭南港着	二二〇。甘ンヤ泊地果入
	九〇。初霜昭南商港船着 入渠ホ 二三五清箱被果沈没 一〇度三八分ホ 地奥(一二度四三分系)	昭南修理完成

三 一	三 〇	二 九	二 八
N 7°-32'	N 10°-0'	一 四 五	N 12°-31.5'
E 103°-36'	E 107°-6'	一 四 五	E 111°-11'
七 九 八	七 八 九	七 七 六	六 八 七
三六 三〇 二八	三三 二九 二六	三三 二九 二六	三三 二九 二六
四 二 五	四 二 五	四 二 五	四 二 五
角 塔 對 岸	角 塔 對 岸	角 塔 對 岸	角 塔 對 岸
景 晴 景	景 晴 景	景 晴 景	景 晴 景

十七號吳登門司二面			
時雨外景發門司面北 八三。A霞足柄大波朝霜 ヲ牽牛カハラン着者 三四五朝ヒハ二船屬高雄着 〇九。〇榎杉ノ松カハラン着 一四。〇A大波足柄朝霜霞 櫻サンゲヤツク高ケカハラン 癸 ニ三。〇榎杉ノカハラン 癸 〇八。〇垣榎杉サンゲヤツク着 一三。〇大波足柄朝霜霞櫻 サンゲヤツク着 一七。三。二〇サンゲヤツク 癸 〇七。三。〇十七號(微風濱風) 時雨龍鳳隊ヲ復新六連 舟(一)護衛船團司令官 指揮シハセ航路)			
前瀬風機測修環空と入 管漏洩)爲失二面航 八三。〇雪風呉着	二〇一日向敵機ヲ受ク 被害ナシ		
		二五。〇B二機サンゲヤツク ノ頃察	二〇三。〇將旗ヲ大波 ニ移揚ス